

目次:	1~3: 学長懇談会報告	4: フーテン旅行記
-----	--------------	------------

## 新三役、学長へ挨拶

この6月で、連合体役員が交代したので、7月30日(木)11時から12時まで、新役員で学長に挨拶及び懇談会に行ってきました。森田学長のほか、阿部企画・総務担当理事、吉野総務担当副学長、森山総務・企画部長が本部棟5階学長室において出迎えてくれました。組合の参加者は、高橋委員長(理)、中富副委員長(法)、藤原副委員長(理)、田村副委員長(農)、赤木副委員長(教)、笹倉書記長(工)、上森執行委員(工)です。懇談会は、一時間くらい時間を取っていただき、大学が抱える諸問題、組合が今年度重視している問題について意見を交換するもので、交渉ではありませんので、和やかな雰囲気の中で行われました。

こちらで用意した話題としては、①キャンパス整備について、②学内ガバナンスについて、③文科省の「国立大学の人文系学部廃止・縮小」方針について、④国歌・国旗について、⑤軍事研究についてなどです。



左より、森山総務企画部長、吉野総務担当副学長、阿部企画・総務担当理事、森田学長、高橋委員長、笹倉書記長、中富副委員長、田村副委員長、上森執行委員、赤木副委員長

### 1. キャンパス整備について

南北道路の整備計画が出ているそうですが、どのようなものですか。学長の「美しい学都構想」における緑化の位置付けについてお聞かせください。

キャンパスを美しくしたい、市民に開放したいという思いがあり、就任後4年半、構想より遅れているが少しずつ進めてきた。今年は南北道路入口を夏休みから整備している。生垣を取りバリアを無くして、歩道と自転車道を整備し、道路とキャンパスの境目をなくしたい。岡山大学の大きな

キャンパスは東西道路、南北道路で分けられ、三つのキャンパスになっているので、それらをひとつにし、広いキャンパスの中に道路が走り、南北道路の先にシンボルである図書館が見通せる、というようなイメージにしたい。石造りの門を移設して歩道の幅を広げる計画をあと1年半の任期の間に整備したい。

Q: 前回の整備、工事の影響で、東西道路の樹の勢いが損なわれた。生育に配慮していただきたい。樹木を大事にする整備にいただきたい。

A: 生育不良は工事の影響とは限らない。我々も専門家の意見を聞きながら進めている。樹は一本も切らないことを原則とし、生育がよくなるように配慮する。

Q: ももチャリのポート設置場所は、図書館の景観に配慮してほしい。

A: 検討のうえ設置する。問題が生じて移設が必要になれば、岡山市の経費で可能である。

Q: 広場のタイルは夏場が暑く大変である。意見を聞き、よりよい整備にしていきたい。

A: まだ木が小さく日陰がないためである。問題点はチェックして対処したい。



## 2. 学内ガバナンスについて

現在岡山大学では各理事が中心となってさまざまな改革が行われていますが、これらの改革が互いに衝突するケースがあり、教育・研究・管理に携わる現場の効率を低下させていると感じています。学長はこの点をどのようにお考えですか。

改革は最初は研究重視で現在は教育重視になっている。主な流れが途中で変わったのであり、衝突とは思っていない。文科省の改革要求には国民の意見が含まれており、国民のイメージする大学像を反映している。だが文科省の言われるままにやっているのではない。年棒制導入も正しいと

いう考えのもとに自信をもってやっている。年棒制イコール研究重視でもない。教育に優れた教員を迎え入れるためにも年棒制を活かせると考えている。

Q: 学部の自治を尊重して欲しい。

A: 根本的に大学全体の自治を確保したい。ただ学部の自治が強すぎても大学改革が進まない。学長の権限は確かに強まったが、教授会で決めたことをくつがえすようなことは、よほどのことがない限り実際にはない。部局単位が構成員の一番大きな柱だと思っている。学部長の権限も従来よりも強くなっている。

Q: 現場では人事計画が進まず、将来的な人員削減が心配されており、負担増の不安がある。

A: 人員削減という発想はなく、あくまで再配置であり、トータルの教員数を減らすことは全く考えていない。来年度以降これまでの講義形式の授業をそのままやろうとすると負担が増えるだろうが、今までどおりではなく、何をすべきか根底から考えていってほしい。想定外の問題が出てきた時には、学長の最終権限を活かしてきめ細かく対処していきたい。

Q: 岡山大学が第三分類で行くことについては？

A: 自己申告する際、岡山大学の立ち位置として第三分類では苦しいかと感じたこともあったが、盛り上げるつもりで行った。研究重視はある程度進んで、いいところまで行っていると自負している。全体的な数値を上げれば、

第三分類で十分評価されると思っている。

岡大のような大学は、研究重視と教育重視のはざまでも苦しいところだが、頑張りましょう。

Q: われわれが研究・教育のやりやすいシステムを、文科省に提言してほしい。6年後、成果を評価してほしい。

A: 最終的に評価するのは、国民であると考えている。

Q: 岡山大学独自の改善を、教員の英知や、実情にあった知恵や意見を集積してほしい。

A: 文科省と衝突しないで、上手にやっていく。

### 3. 文科省の「国立大学の人文系学部廃止・縮小」方針について

文科省は国立大学に対して、教員養成系や人文社会科学系の学部・大学院の廃止や転換に取り組むことを求めています。どのようにお考えですか。岡山大学の方針をお聞かせください。



文科省の鈴木寛大臣補佐官の話（7月29日の役員招聘特別講演会）によると、文科省の真意は廃止縮小というより今のままではいけないということで、我々に何を变えるべきか問うている。私もその圧力は感じている。再配置については、先生方にも考えていただきたい。文科省高官の考えの根底には、文系は私大にまかせればよいというのが見え隠れするが、私の根本的な考えとしては、文系のない大学は大学ではない、文系の力がその大学の格を決めると思っている。廃止縮小という考えは全くない。

教員養成系については、教員免許を取らせる人数が多すぎるのが問題で、ちゃんと教員になる人を養成すべきだということで、教育学部縮小という意味ではないとの話であった。岡大では執行部の中に教育学部の人がないことが気になっているので、ぜひ入っていただきたいが、まずは学部のなかでしっかり方向性を考えて意見を上げてほしい。日本の人口が減っても、質の高い教員を育てることには社会的ニーズがあるはず。

### 4. 国歌・国旗について

現在の岡山大学の入学式卒業式で国歌国旗の扱いはどうなっていますか。また今後どのようにする予定ですか。文科大臣の「要請」についてどのように考えていらっしゃいますか。

文科省の要請以前にやるべきだと考えて、国旗は卒業式、入学式などの儀式に掲げ、国歌もグリークラブに歌ってもらっているが、斉唱を強制するものではない。軍国主義に結びつける考えは全くなく、国旗・国歌というもののシンボリックな意味を重視している。

### 5. 軍事研究について

大学が軍事研究をすることについてどのようにお考えですか。

大学として拒否したり推奨したりするのは間違っているが、個人が自分の科学的な興味に基づいて研究することには抵抗はない。意図しなくても自分の研究が軍事的に使用されることもありうる。科学の発展、人間の進歩のために研究すること自体は必要だと思う。



組合からは、4のテーマについて、日本の歴史のなかで果たした役割などにも考慮し、慎重に行なって欲しい、強制などはあってはならないと要請しました。

また5の軍事研究は難しいテーマであり、境界がはっきりしないことは理解している。しかし、ある研究者がある研究をするかどうかという問題と、大学という施設を使って行うことが相応しいかどうかは別の問題ではないか。大量殺戮兵器の製造につながる研究は控えるべきだとか、ある程度の倫理的基準は必要ではないかと思う。また、大学施設を使うということを考えれば、研究員や院生・学生の安全にも、周りの安全にも配慮すべきだし、研究成果を公表できないということになれば彼らの進路を限定してしまう。大学として公表できない研究を行うのはいかなるものかという問題も生じうる。自然科学的な発想だけではなく、人文社会科学の見地も含めて、大学としていかなる指針を持つべきか、総合的に検討していく必要があるのではないかと意見を述べました。

その他にも様々な意見を交換し、学長への挨拶和やかな雰囲気で行われました。



森田学長はじめ、阿部理事、吉野副学長、森山部長には、お忙しい中、お時間を取っていただき、ありがとうございました。

(副委員長 赤木里香子)

## ローカル線で行く！フーテン旅行記

## 第29回結ばれなかった路線を訪ねて！ 前編

## 越美北線（えつみほくせん）

工学部単組 大西孝  
旧国鉄（現在のJR）の路線の名前には、その路線が走る旧国名に由来するものはいくつもあります。身近な例では、伯耆（鳥取県西部、米子市）と備中（岡山県西部、倉敷市）を結ぶ伯備線や、因幡（鳥取県東部、鳥取市）と美作（岡山県北部、津山市）を結ぶ因美線などが挙げられます。さらには、長大な路線の場合、磐越西線や磐越東線、陸羽西線と陸羽東線のように、路線名が分けられる場合もあります。ここで福井県の地図を見ると、越美北線（愛称：九頭竜線）という路線が目に入ります。では、対になる越美南線という路線があるのかと目を凝らしても、対応するJR線は見当たりません。一方で、岐阜県の山の中で行き止まりになっている、長良川鉄道越美南線が目飛び込んできます。そうです、これが実は、越美北線と結ばれるはずだった路線です。



越美北線の終点九頭竜湖駅。駅の周囲も山に囲まれています。車止めの先、線路は岐阜県へ通じるはずでした。



車内から眺める九頭竜川。トンネルが多いので、川が見える区間は限られています。



越前大野から勝山へ抜ける途中にある平泉寺白山神社の参道。うっそうとした木立が荘厳な雰囲気を出

しており、日本の道100選に選ばれています。

越美北線は、福井市の越前花堂（えちぜんはなんどう）と岐阜県美濃加茂市の美濃太田を結ぶ越美線の一部として、福井側から工事がはじめられ、岐阜県側からも、越美南線の工事が進められました。越美北線は、岐阜県境に近い九頭竜湖駅までは昭和47年に開通し、また、越美南線も、岐阜県の北端に近い北濃（ほくのう）駅までは戦前に開通していましたが、それ以上工事が進められることはなく、越美南線は利用客が少ないことから、第3セクターの長良川鉄道になり、JR線には引き継がれませんでした。現在、九頭竜湖駅と北濃駅を結ぶ路線バスは廃止され、両駅間を移動する需要がないことがうかがい知れます。

越美北線の列車は、北陸本線の福井駅からすべての列車が発車します。福井駅の西隣にある越前花堂から越美北線として本線からわかれ、一路、九頭竜湖を目指します。沿線最大の駅、越前大野を超えると山に分け入り、終点が近づく九頭竜川が近づきますが、この区間はトンネルが多く川が見えるのは一瞬です。終点の九頭竜湖は駅の周辺に何もなくて、線路がぶつんと途切れており、線路の先に目をやると、県境の山々が通せんぼをするように立ちはだかっています。あの山を越えると、越美南線の北濃駅がありますが、今一歩及ばなかったローカル線の悲哀を感じさせます。

沿線の見どころは、途中の越前大野駅付近にある大野城跡や、越前大野駅から、えちぜん鉄道の勝山駅へ抜けるバス路線沿いにある平泉寺（へいせんじ）白山神社などがあります。平泉寺白山神社は、1300年も前に開かれた古刹で、うっそうとした木立の中に趣深い参道があり、境内にある看板によると、1547年に焼失した拝殿は、正面が45間もある我が国最大のものだったそうです。現在の拝殿は、1859年に再建されたものだそうですが、左右に残る礎石から、かつての拝殿の大きさをしのぶことができます。

今回は、結ばれるはずだったもう一方の路線、長良川鉄道越美南線をご紹介します。お楽しみに。



苔むした平泉寺白山神社の境内。ところどころに建物の礎石も見られ、かつての繁栄が忍ばれます。